

Expedition

片岡賢祐

アラスカに行きたい！でかい事がしたい！3年前、そう思ってこの部の扉を叩いた。この思いこそ探検の根源だ。

フィールドで様々なアプローチから自分にとって大きく未知なことに挑戦する。これが我が部の活動内容だと私は認識している。他と違い、我が部は大会や試合といった予め決まっている明確な目標がない。

我々の活動は自由に自ら目標を立て、行っていく。自分のやりたい事をとことんできるのだ。

合宿の時期が来たからとりあえず合宿をたてる。これでは折角の4年間がもったいない。先輩、OBの意見なんて関係ない。本当に自分が何をしたいかである。主張し、先輩、OBの壁を突き破ることも我が部では重要なことである。

また、近年純粋な探検活動をする場が減ってきている。そういった中で我々の活動も同じことの繰り返しばかりでマンネリ化しているのが現状である。私は今まで4年間で国内の様々な所へ行き、海外遠征も行った。

しかし、これらは本当に探検活動であろうか？

本当の探検とは未踏地調査など、知られていないものを調査することだと思う。そのような意味で、登山、カヌーが本当の探検とは思わない。

今の我々の活動は果たして何なのか？

私は探検のようなものだと思う。「自分にとって新しいこと、挑戦的なこと＝探検」である。この考えで行けば、山岳部もワンゲルも探検である。

本当の探検ができなくなった今、我々は探検うんぬんを別にして、もっと純粋に山、海、川などの自分の好きなフィールドに取り組んで行けばよいのではないかと私は思う。

今後もこの部が入部者の未知の世界を開ききっかけであり続けるよう願う。

(49代/4回生)

今回、特別に早稲田大学探検部
幹事長 光永さんからも寄稿を
いただきました。

探検部とは

光永奏者

早稲田大学探検部の現状

現役探検部員18名。そのうち1, 2回生が12名。

今の早大探検部は力に漲っている！だが、エネルギーの向けどころに皆とまどう。今年度は早大探検部にとっては「冬眠」そして「成長」の時期と考えています。

近年の遠征

07年3月 イリアンジャヤ 新種生